

## 1 貯蔵花粉の発芽試験を実施します

	受付月日	受付時間	受付場所	結果の報告
(旧)第1選果場管内	3月13日(月)	午前9時~10時	梨会館	受付の <b>2日後</b> に梨会館入り口に貼り出します(射水市は別途対応)。
(旧)第2選果場管内	3月14日(火)	午前9時~10時	梨会館	

※受付日前日に、試験に使う分のみを冷凍庫から取り出し、直射日光と暖房を避けて保管・準備してください。

## 2 病虫害対策について

### (1) 黒星病対策 (落葉処理・芽基部病斑除去)

#### ①落葉処理

- 令和4年11月に調査した「幸水」の黒星病秋型病斑葉発生率は11%(令和3年は14%)で、令和元年、2年(いずれも2%)よりも高いことから、昨年同様、落葉からの孢子飛散による黒星病の感染・発病に注意が必要です。
- 3月から、落葉からの孢子飛散が始まるので、2月末を目途に**処理後の園地内**(特に園地周囲、幹元)や周囲の側溝などに葉が原形のまま残っていないか、確認してください。図1のように落葉処理が不十分な場合は、再度落葉処理を行ってください。
- 落葉の放置や落葉処理精度が低い園地があると、自園地のみでなく、隣接園地(他の生産者)にも被害を及ぼします(産地全体での取り組みが重要です)。



図1 落葉処理が不十分な園地例  
ロータリーの走行速度が速く、爪も深すぎて、葉が原型のまま浮き上がっている

#### ②芽基部病斑除去

- りん片脱落期に枝をふるってもりん片が落ちない芽や枯れたりん片が残っている芽は、黒星病罹病芽の恐れがあるので切除して処分してください。
- 黒星病の芽基部病斑は見つけ次第、摘み取って園外に持ち出し、適正に処分してください(特に受粉前に作業の徹底を図りましょう)。

※黒星病対策は、平成28年1月に配布された「呉羽梨黒星病対策指針」や「黒星病Q&A集」、平成31年1月に配布された「落葉処理マニュアル」なども参考にの的確に取り組まましょう。

### (2) カイガラムシ類対策 (対策研修会を2月下旬~3月上旬頃に各生産組合等单位で開催する予定です。)

#### ①農薬防除

- 交配樹、園地外周部、主枝先端、短果枝群(しょうが芽)や若木の主幹~主枝部分などにカイガラムシ類が見られます。現在、カイガラムシ類が多く見られる園については、かかりムラの無いように下表薬剤を散布してください。特に、立ち木状態の交配樹については、カイガラムシ類の発生源になっているので、確実に防除を行ってください。

散布時期	薬剤名	主な対象害虫	濃度	10a 当たり散布量	防除実施日
2月下旬 (休眠期)	機械油乳剤 95	カイガラムシ、サビダニ、 ハダニ類及びその越冬卵	20倍	200~300 リットル (十分量)	

#### 【注意事項】

- ①機械油乳剤 95 は、樹勢低下が懸念されるので、樹勢が弱っている樹や連年での使用は控えてください。
- ②散布は暖かくて風のない日で、散布後の数日間、降雨の心配が無い日を選んで行ってください。
- ③発芽後の散布は薬害の恐れがあるので、必ず2月中に散布してください。

#### ② 耕種的防除

- 立ち木状態の交配樹等で樹高が高い、棚仕立て樹で主枝先端が高い場合(えんとつ状態)は、できるだけ切り下げてください。
- 古い側枝の短果枝群(しょうが芽)は、芽の整理を行ってください(裏面参照)。
- カイガラムシ類の付着が多いところでは、「機械油乳剤 95」の散布前にワイヤーブラシ等(図2)で削り落としてください。
- この他、粗皮の隙間にはナシヒメシンクイやハダニ類等が越冬しています。粗皮削りを行うとともに、輪紋病のイボ皮も削り落しましょう。



図2 ワイヤーブラシによる削り落とし

## 3 誘引・花芽整理

### (1) 誘引 (棚付け)

- ①側枝間隔は40cm程度を基準に、枝が交差しないように配置するとともに、弓なりにならないよう、棚に水平に誘引しましょう。
- ②側枝バランスの目安として、「幸水」は長果枝50%、2年生側枝30%、3年生側枝20%、「豊水」は長果枝と2年生以上の側枝の比率が1:2程度になるよう、古い側枝を積極的に更新しましょう。
- ③予備枝は、優良な長果枝育成に重要であるとともに樹勢維持強化にも役立つので、できるだけ多く配置するように心がけてください。

## (2) 花芽整理

短果枝や短果枝群(しょうが芽)上に複数ついている花芽の中から余分な花芽を整理することで、開花・結実時の貯蔵養分の消耗が少なくなるとともに、その後の摘蕾、摘果作業の省力化につながります。また、薬剤の透過性も向上し、黒星病やカイガラムシ類等の防除効果が高まります。

整理方法は、図3のとおり、側枝の外側を向く充実した花芽1個を残し、その他は果台を残して花芽をかき取ってください。台座が長い短果枝群は基部近くまで切除してください。また、下芽、弱小花芽は他に十分花芽がある場合には切除してください。

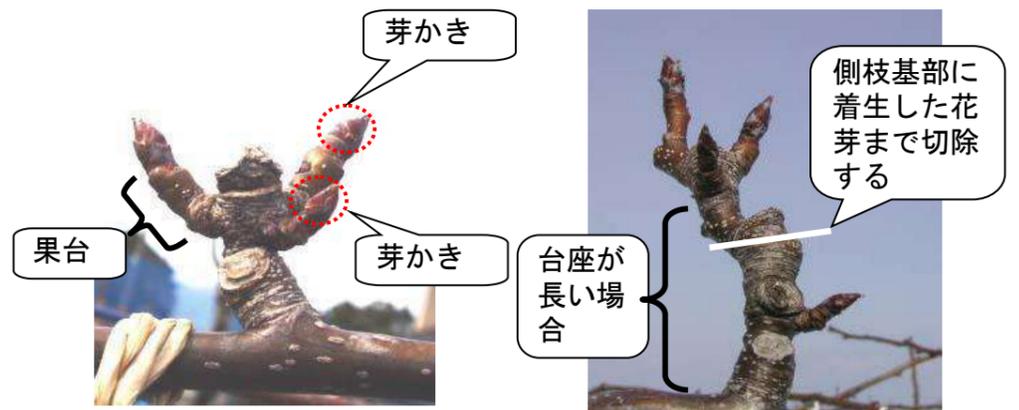


図3 花芽整理の例

## 4 凍害対策

苗木～4年生程度までの樹は、発芽前頃(3月中下旬～4月初旬頃)から急速に耐凍性が弱まり、抵抗力が低下します。凍害は、日中の気温が高くなり(15℃以上くらい)、朝の気温が-2～-3℃程度まで下がる時期に発生しやすくなります。

凍害を受けると苗木や若木は樹勢低下や枯死につながる場合があります。そのため、下記の凍害対策を行ってください。

### (1) アルミ蒸着シートの巻き付け

(日中の温度上昇の抑制: 図4)

主幹部の地際から80cm程度の高さまで、アルミの面を外側にして巻き付ける。使用する資材は厚さ1～2mm程度の緩衝資材の片面にアルミ蒸着されているもの(ホームセンター等で購入可)。

### (2) わら巻き(保温: 図5)

上記と同様に主幹部にわらを巻く。まとめて仮植してある場合は、コモ等を巻いて保温に努める。

※霜害対策については、今後ご案内します(昨年同様、梨園地低温警報メールを発信予定です)。



図4 アルミ蒸着シートの巻き付け



図5 わら巻き

## 5 春肥の施用

春肥は3月中下旬頃、下記を目安に施用しましょう。

<10a当たり施用例>

例1 BM有機果樹専用(8-7-7) 100kg(成分量 窒素8.0kg、リン酸7.0kg、カリ7.0kg)

例2 なのはな梨配合(7-7-3) 100kg(成分量 窒素7.0kg、リン酸7.0kg、カリ3.0kg)

## 6 開花予想

1月の平均気温は3.8℃(平年比+0.8℃)とやや高く、2月に入っても平年より高温傾向です(2月12日までの平均気温は4.0℃(平年より1.3℃高い))。

2月13日現在の開花予想日は右表のとおりで、前年よりも遅く、ほぼ平年並みの予想となっていますが、今後の気温に大きく左右される可能性があります。

最新の情報については今後発行する特報や梨メールでご確認ください(梨メールは3月初旬から配信予定です)。

表 2月13日時点の開花予測

品種名	令和5年予想(2月13日現在)	
	開花始め(前年・平年差)	満開日(前年・平年差)
幸水	4月16日(+4・-1)	4月20日(+4・-1)
豊水	4月13日(+3・-1)	4月16日(+4・-1)
あきづき	4月15日(+4・+1)	4月18日(+5・-2)
新高	4月10日(+1・-1)	4月13日(+3・-1)

※前年・平年差は、プラス値は「遅い」、マイナス値は「早い」を表す

## 7 農業サポーターがお手伝いします

平成18年よりサポート活動を開始して以来、農業者の皆さまのご支持を得て、梨の摘果作業などにおいてサポート活動を行っています。昨年は24名の梨生産者の方がのべ1,539人のサポーターを活用されています(主な活動内容:人工受粉、摘果、収穫等)。

農繁期に人手が足りずお困りの方や、年間を通じてサポートが必要な方は、下記までご相談ください。

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人(NPO法人) 里山倶楽部(サポート業務窓口;tel.076-411-4401)  
富山市農林水産部営農サポートセンター(tel.076-429-4504)

## 8 苗木の新植、老齢樹の改植、園地整備などに補助事業が活用できます

未耕作園地への苗木の新植、老齢樹園地の改植、小規模園地整備(傾斜の緩和、排水路の整備など)などに、国補助事業(果樹先導的取組支援事業など)が活用できます。

なお、事業実施にあたっては、①新植、改植は事業計画承認後に苗木を購入すること、②地続きでおおむね2アール以上であること、③小規模園地整備は地続きでおおむね10アール以上であることなど、要件があります。事業活用をご検討される方は、下記にご相談ください。

【お問い合わせ】 富山県富山農林振興センター担い手支援課園芸振興班 担当:南條(tel.076-444-4523)

### 梨メールを是非活用ください

本年も防除時期の案内や黒星病の発生リスクなどについて情報提供しますので、積極的な活用をお願いします。新たに希望される方、メールが届かなくなった場合など、下記のアドレスへお名前、電話番号と、「梨メール希望」と入力してお送りください。

<送信先メールアドレス:masanobu.nanjo@pref.toyama.lg.jp >

【お問い合わせ】 富山県富山農林振興センター担い手支援課園芸振興班 担当:南條(tel.076-444-4523)